

証券コード 3123  
2024年6月6日  
(電子提供措置の開始日2024年6月5日)

株 主 各 位

埼玉県川口市前川1丁目1番70号

**サイボー株式会社**

代表取締役社長 飯塚 榮一

## 第101回定時株主総会招集ご通知

拝啓 平素は格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、当社第101回定時株主総会を下記のとおり開催いたしますので、ご通知申し上げます。

本株主総会の招集に際しては電子提供措置をとっており、インターネット上の下記ウェブサイト  
に「第101回定時株主総会招集ご通知」および「第101回定時株主総会その他の電子提供措置  
事項（交付書面省略事項）」として電子提供措置事項を掲載しております。

当社ウェブサイト <https://www.saibo.co.jp/>



上記の当社ウェブサイトにある「株主・投資家情報」「株主総会関係資料」の順に選択してご  
覧ください。

また、上記のほか、インターネット上の下記ウェブサイトにも掲載しております。

東京証券取引所ウェブサイト

<https://www2.jpx.co.jp/tseHpFront/JJK010010Action.do?Show=Show>



上記の東京証券取引所ウェブサイトアクセスして、当社名または証券コードを入力・検索  
し、「基本情報」「縦覧書類/PR情報」を順に選択のうえ、ご覧ください。

なお、当日ご出席されない場合は、インターネットまたは書面により議決権を行使することが  
できますので、お手数ながら電子提供措置事項に掲載の株主総会参考書類をご検討のうえ、  
2024年6月26日（水曜日）午後5時40分までに議決権を行使していただきますようお願い申  
し上げます。

敬 具

## 記

1. 日 時 2024年6月27日（木曜日）午前10時
2. 場 所 埼玉県川口市前川1丁目1番70号 当社3階会議室
3. 目的事項  
報告事項
  1. 第101期（2023年4月1日から2024年3月31日まで）事業報告の内容、連結計算書類の内容ならびに会計監査人および監査役会の連結計算書類監査結果報告の件
  2. 第101期（2023年4月1日から2024年3月31日まで）計算書類の内容報告の件

### 決議事項

- |       |                   |
|-------|-------------------|
| 第1号議案 | 剰余金の処分の件          |
| 第2号議案 | 取締役4名選任の件         |
| 第3号議案 | 監査役4名選任の件         |
| 第4号議案 | 退任取締役に対し退職慰労金贈呈の件 |

以 上

---

### 【議決権の行使等についてのご案内】

3頁から4頁に記載の「議決権行使方法のご案内」をご参照ください。

- ◎当日ご出席の際は、お手数ながら同封の議決権行使書用紙を会場受付にご提出くださいますようお願い申し上げます。
- ◎ご送付している書面は、書面交付請求に基づく電子提供措置事項記載書面を兼ねております。なお、法令および当社定款第18条の規定に基づき、下記の事項を除いております。したがって、当該書面は監査報告を作成するに際し、監査役および会計監査人が監査をした書類の一部であります。
  - ①事業報告の「業務の適正を確保するための体制及びその運用状況の概要」
  - ②連結計算書類の「連結株主資本等変動計算書」「連結注記表」および計算書類の「株主資本等変動計算書」「個別注記表」
- ◎電子提供措置事項に修正が生じた場合は、掲載している各ウェブサイトに掲載させていただきます。

## 議決権行使方法のご案内

---

### 当日ご出席されない場合



#### ●郵送によるご行使

同封の議決権行使書用紙に賛否をご表示いただき、行使期限までに到着するようご返送ください。議決権行使書面において、議案に賛否の表示がない場合は、賛成の意思表示をされたものとして取り扱わせていただきます。

行使期限 2024年6月26日（水曜日）午後5時40分必着



#### ●「スマート行使」によるご行使

同封の議決権行使書用紙の右下「スマートフォン用議決権行使ウェブサイトログインQRコード」をスマートフォンかタブレット端末で読み取ります。詳細につきましては次頁をご覧ください。

行使期限 2024年6月26日（水曜日）午後5時40分まで



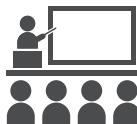
#### ●インターネットによるご行使

当社の指定する議決権行使ウェブサイト (<https://www.web54.net>) にアクセスしていただき、画面の案内に従って、賛否をご送信ください。詳細につきましては次頁をご覧ください。

行使期限 2024年6月26日（水曜日）午後5時40分まで

---

### 当日ご出席される場合



#### ●株主総会へのご出席

当日、同封の議決権行使書用紙をご持参いただき、会場受付にご提出ください。また、議事資料として本冊子をご持参くださいますよう、お願い申し上げます。

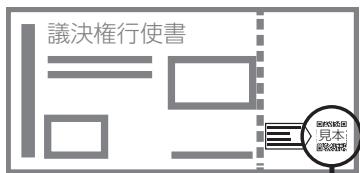
株主総会日時 2024年6月27日（木曜日）午前10時開催

※書面による議決権行使とインターネット（「スマート行使」を含む）による議決権行使が重複して為された場合は、到着日時を問わず、インターネット（「スマート行使」を含む）によるものを有効な議決権行使として取り扱わせていただきます。

※インターネット（「スマート行使」を含む）による議決権行使が複数回為された場合には、最後に行われたものを有効な議決権行使として取り扱わせていただきます。

# 「スマート行使」によるご行使について

①スマートフォン用議決権行使ウェブ  
サイトへアクセスする

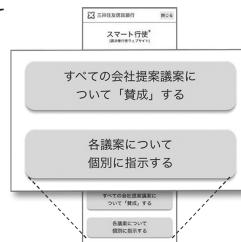


同封の議決権行使書用紙の右下「スマートフォン用議決権行使ウェブサイトにログインQRコード」をスマートフォンかタブレット端末で読み取ります。

※QRコード<sup>®</sup>は、株式会社デンソーウェブの登録商標です。



②以降は画面の案内に従って  
賛否をご入力ください。



「スマート行使」での議決権行使は1回に限り可能です。議決権行使後に行使内容を変更する場合は、お手数ですが以下のPC向けサイトへアクセスし、議決権行使書用紙に記載の「議決権行使コード」・「パスワード」を入力してログイン、再度議決権行使をお願いいたします。

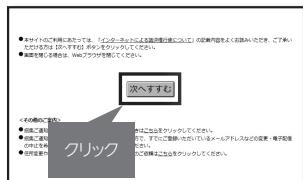
※QRコードを再度読み取っていただくと、下記の議決権行使ウェブサイトへアクセスできます。

# インターネットによるご行使について

お手元の議決権行使書用紙の、所有株式数が印字されている面の左下に記載されている「議決権行使コード」及び「パスワード」をご用意のうえ、アクセスをお願いいたします。

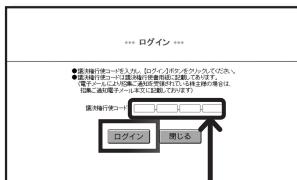
①議決権行使ウェブサイト  
へアクセスする

<https://www.web54.net>



②ログインする

同封の議決権行使書用紙に記載の「議決権行使コード」をご入力ください。



議決権行使コード

③パスワードを入力する

同封の議決権行使書用紙に記載の「初期パスワード」をご入力ください。



実際にご使用になる新しいパスワードを設定してください。

「登録」をクリック

以降は画面の案内に従って賛否をご入力ください。

※ 議決権行使ウェブサイトをご利用いただく際の接続料金及び通信料金等は株主様のご負担となります。

※ インターネットのご利用環境、ご加入のサービスやご使用の機種によっては、議決権行使ウェブサイトをご利用いただけない場合があります。

インターネットによる議決権行使でパソコンやスマートフォンの操作方法などがご不明な場合は、右記にお問い合わせください。

三井住友信託銀行 証券代行ウェブサポート 専用ダイヤル  
電話番号：0120-652-031 (フリーダイヤル)  
(受付時間 午前9時～午後9時)

# 事業報告 (2023年4月1日から2024年3月31日まで)

## 1. 企業集団の現況に関する事項

### (1) 事業の経過及びその成果

当連結会計年度におけるわが国経済は、コロナ前を上回るインバウンド需要や内需の緩やかな回復などから、経済活動の正常化が進みましたが、原材料価格の高止まりや円安を背景とした物価上昇に加え、中国の経済成長の鈍化や不安定な国際情勢による地政学リスク等の影響も懸念され、国内景気動向は依然として不透明な状況が続いております。

当社グループにおける事業環境は、繊維事業では、海外からの製品等仕入れにおいて、円安、原材料高の影響を受け、また、国内ではキャンプ関連商品の需要が減少傾向を見せるなど懸念材料はありますが、一方でプリント加工の新規事業が順調に推移するなど、取扱品により差が出た事業活動となりました。

不動産活用事業は、賃貸物件である大型商業施設「イオンモール川口前川」、[イオンモール川口] や病院施設等からの安定した賃貸収入を維持しており、営業収益の安定化が図られております。

この結果、当連結会計年度の売上高は11,422百万円（前期比12.2%増）となりました。営業利益は987百万円（前期比9.6%減）となり、経常利益は1,421百万円（前期比19.7%増）となりました。親会社株主に帰属する当期純利益は945百万円（前期比29.0%増）となりました。

事業別セグメントの概況は次のとおりであります。

#### [繊維事業]

マテリアル部は、原糸や生地販売において仕入コスト上昇に対する価格転嫁や仕入先の見直しを進めたことに加え、三国間貿易による落ち綿販売が増加し増収となりましたが、為替相場の影響をカバーしきれず減益となりました。

アパレル部は、販売先への価格転嫁が進むとともに、ワーキングウエア等の受注が増加したことや新規大口案件の獲得もあり、増収増益となりました。

アウトドア部は、コロナ禍において急伸していたキャンプ関連需要が大きく減退したことに加え、商品値上げによるエンドユーザーの買い控え等もあり、減収減益となりました。

刺繍レースを扱うフロリア(株)は、新規販売先への服地レースの売上が伸びたことによる増収に加え、販管費の削減に努めたことから損失が縮小しました。

プリント加工品の製造・販売を行うサイボークリエイト(株)は、前第3四半期連結会計期間より事業を開始しておりますが、様々な分野より受注を得るなど順調に業容を拡大し、業績に貢献しております。

また、前連結会計年度まで非連結子会社であった糸糊付加工を営む日宇産業(株)は重要性が増したため、当連結会計年度より連結の範囲に含めております。

この結果、繊維事業の売上高は6,755百万円（前期比26.6%増）となりましたが、取引先に対する貸倒引当金を計上したことなどから営業損失は19百万円（前期は13百万円の営業利益）となりました。

#### [不動産活用事業]

不動産活用事業は、「イオンモール川口前川」が近隣の大型商業施設に比べ回遊型ショッピングが楽しめ、お客様の利便性と近隣住民の生活環境にあった専門店選びが評価されております。また「イオンモール川口」は、多様化するニーズに応え、多様なコンテンツを備えて近隣住民の新たな生活の一部として受け入れられており、病院施設等と併せ地域インフラとして定着し、ともに売上及び収益の安定化に寄与しております。なお、当期においては前期ほどの過大な収支がなく、当期の営業利益は前期と同水準で推移しました。

この結果、不動産活用事業の売上高は3,714百万円（前期比0.1%増）、営業利益は949百万円（前期比1.8%減）となりました。

#### [ゴルフ練習場事業]

埼玉興業(株)が営む川口・黒浜・騎西の各グリーンゴルフ練習場は、イベントの開催や新しい設備の導入、女性レッスンプロの活用等を図ってまいりましたが、コロナの分類引き下げにより、三密を避けられるスポーツとしての優位性が低下し、また強風等悪天候を受け一時営業停止日が増えたことによる来場者の減少や、ボールの入替費用を計上したことから、減収減益となりました。

この結果、ゴルフ練習場事業の売上高は924百万円（前期比4.8%減）、営業利益は14百万円（前期比79.5%減）となりました。

#### [その他の事業]

神根サイボーク(株)のインテリア施工事業は、大口物件の工事案件が減少し減収となりましたが、資材及び外注費の高騰を抑制するとともに業務の効率化を図ったことで増益となりました。

この結果、その他の事業の売上高は730百万円（前期比8.5%減）、営業利益は59百万円（前期比6.1%増）となりました。

## (2) 設備投資の状況

当連結会計年度の設備投資額は、358百万円であります。主なものは、大型商業施設の維持管理工事を含む不動産活用事業への設備投資が185百万円、ゴルフ練習場の維持管理工事が60百万円、繊維事業への設備投資が43百万円であります。

## (3) 資金調達の状況

当連結会計年度において、社債又は新株式の発行等による資金調達は行っておりません。

## (4) 対処すべき課題

当社グループでは、2024年4月から3カ年中期経営計画「サイボー中期ビジョン2025」の2年目を迎えました。

その取組みのテーマは、「繊維事業のさらなる収益力強化」、「不動産活用事業の継続的及び積極的な安定収入の確保」、「各事業における新たな取組みへの挑戦」であり、グループ全体としてより付加価値の高い商品やサービスへのシフトを図ってまいります。

繊維事業においては、原糸販売は、サステナビリティを意識した企画に取り組み、リサイクル糸、バイオ糸等の環境に配慮した製品の販売を推進していき、ユニフォーム及びキャンプ関連商品の販売では、社会における課題やニーズ（異常気象、環境、高齢化等）に対し、商品提供を通じたソリューション提案を強化していきます。また、プリント加工品の製造・販売では、工場生産体制を整えるとともに、いっそうの顧客基盤の拡大を図り、さらに業績へ寄与できるよう取り組んでいきます。一方、不採算部門については、製造販売体制の見直しなどを検討し、繊維事業の収益力向上に繋げてまいります。

不動産活用事業では、首都圏内に多くの商業施設が点在しているものの、大型商業施設である「イオンモール川口前川」及び「イオンモール川口」は需要圏内でも大規模な商業施設であり、人口が密集する住宅地、幹線道路等の近接性に優れております。このような環境下であっても、競合他社に比べ常に優位性を維持するよう設備の改修、改善を行い、2つの大型商業施設を魅力ある建物として併存させるため、引き続きイオンモール(株)と連携してまいります。また、その他既存の賃貸施設についても、より長くお客様に利用されるよう維持管理に努め、収益の安定基盤を築いてまいります。

ゴルフ練習場事業は、各種イベントの開催や設備の導入、メンテナンスによりお客様へのサービス向上を図り、また、ゴルフスクールや個人レッスンを充実させ来場者のリピーター化を目指します。

その他の事業では、インテリア施工事業は、一般施工件数を増加させ事業の安定化を推進します。

以上のような各事業の計画を実現させるため、経営理念の「お客様によるこばれる商品の提供」を事業の基本として、「株主の皆様へ報いる企業価値の向上」への取り組みをさらに推進します。また、従業員一人ひとりの能力が最大限発揮できる職場環境の整備や人材育成に注力するなど、ウェルビーイング経営に取り組み、ステークホルダーの皆様へ満足を提供できる企業づくりを目指してまいります。

当社グループは、業容の拡充と環境配慮・地域貢献との両立による企業価値の向上を第一義として、社会的責任を全うする観点から内部統制システムを充実させ、企業組織の活性化と法令遵守に意を用いて、内外の信頼と評価をさらに高めてまいります。

株主の皆様におかれましては、今後とも一層のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

## (5) 財産及び損益の状況

企業集団の財産及び損益の状況

| 区 分                       | 第98期<br>2021年3月期 | 第99期<br>2022年3月期 | 第100期<br>2023年3月期 | 第101期<br>(当連結会計年度)<br>2024年3月期 |
|---------------------------|------------------|------------------|-------------------|--------------------------------|
| 売上高 (百万円)                 | 6,729            | 8,958            | 10,182            | 11,422                         |
| 経常利益 (百万円)                | 874              | 740              | 1,186             | 1,421                          |
| 親会社株主に帰属する<br>当期純利益 (百万円) | 587              | 499              | 733               | 945                            |
| 1株当たり<br>当期純利益 (円)        | 44.53            | 37.81            | 55.49             | 71.76                          |
| 総資産 (百万円)                 | 39,133           | 42,895           | 41,847            | 43,533                         |
| 純資産 (百万円)                 | 16,611           | 17,484           | 18,177            | 19,561                         |
| 1株当たり純資産額 (円)             | 1,098.23         | 1,159.89         | 1,207.70          | 1,314.86                       |

(注) 第99期より「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日)等を適用しており、第99期以降の財産及び損益の状況については、当該会計基準等を適用した後の数値を記載しています。

## (6) 重要な子会社の状況

### ① 重要な子会社の状況

| 会社名          | 資本金   | 当社の<br>議決権比率 | 主要な事業内容          |
|--------------|-------|--------------|------------------|
| 埼玉興業(株)      | 30百万円 | 51.56%       | ゴルフ練習場の運営、不動産の賃貸 |
| 神根サイボー(株)    | 10百万円 | 40.00%       | インテリア施工          |
| フロリア(株)      | 74百万円 | 100.00%      | 刺繍レースの製造販売       |
| サイボークリエイト(株) | 10百万円 | 100.00%      | プリント加工品の製造販売     |
| 日宇産業(株)      | 14百万円 | 100.00%      | 糸糊付加工の請負・販売      |

### ② 重要な関連会社の状況

| 会社名           | 資本金   | 当社の<br>議決権比率       | 主要な事業内容     |
|---------------|-------|--------------------|-------------|
| トヨタ東埼玉グループ(株) | 5百万円  | 36.58%<br>(18.29%) | 自動車板金塗装修理事業 |
| ネットトヨタ東埼玉(株)  | 30百万円 | —%<br>(36.58%)     | 自動車販売代理店の経営 |

- (注) 1. 議決権比率欄の( )内は、間接所有割合であります。
2. 2023年4月1日をもって、持分法適用関連会社であったネットトヨタ東埼玉(株)は株式交換により、トヨタ東埼玉グループ(株)の完全子会社となっております。
3. トヨタ東埼玉グループ(株)は2023年4月1日付で、(株)NTワークスから社名変更しております。

## (7) 主要な事業内容

| 事業区分     | 主要製品及び事業内容   |
|----------|--|
| 繊維事業     | ユニフォーム、スポーツ製品、衣料品、販促商品、レーヨン糸、合繊糸、合繊生地、麻生地、刺繍レースの製造販売、糸糊付加工、アウトドア関連商品、プリント加工品 |
| 不動産活用事業  | 商業施設の賃貸、その他不動産の賃貸、ビルメンテナンス   |
| ゴルフ練習場事業 | ゴルフ練習場の運営  |
| その他の事業   | インテリア施工、自動車販売代理店の経営、自動車板金塗装修理事業  |

## (8) 主要な営業所及び工場

| 名 称          | 所 在 地                                  |
|--------------|--|
| 当社           | 本社：埼玉県川口市<br>東京支店：東京都中央区               |
| 埼玉興業(株)      | 本社：埼玉県川口市                              |
| 神根サイボー(株)    | 本社：埼玉県川口市                              |
| フロリア(株)      | 本社：東京都中央区<br>工場：栃木県那須烏山市               |
| サイボークリエイト(株) | 本社：埼玉県川口市<br>東京営業所：東京都中央区<br>工場：埼玉県川越市 |
| 日宇産業(株)      | 本社工場：福井県吉田郡永平寺町                        |

### (9) 従業員の状況

| 事業セグメント  | 従業員数 | 前連結会計年度末比増減 |
|----------|------|-------------|
| 繊維事業     | 63名  | 5名          |
| 不動産活用事業  | 3名   | 一名          |
| ゴルフ練習場事業 | 22名  | △3名         |
| その他の事業   | 5名   | 一名          |
| 全社（共通）   | 22名  | 1名          |
| 合計       | 115名 | 3名          |

- (注) 1. 従業員数は就業人員であり、臨時従業員141名は含んでおりません。  
2. 全社（共通）は、総務及び財務等の管理部門の従業員であります。

### (10) 主要な借入先

| 借入先          | 借入残高     |
|--------------|----------|
| 株式会社埼玉りそな銀行  | 6,643百万円 |
| 株式会社三井住友銀行   | 4,400百万円 |
| 三井住友信託銀行株式会社 | 2,869百万円 |

## 2. 会社の株式に関する事項

- (1) 発行可能株式総数 48,000,000株  
(2) 発行済株式の総数 13,078,679株(自己株式521,321株を除く。)  
(3) 株主数 1,720名  
(4) 大株主

| 株 主 名        | 持 株 数   | 持株比率  |
|--------------|---------|-------|
| 埼玉不動産株式会社    | 2,183千株 | 16.7% |
| 飯塚元一         | 1,427千株 | 10.9% |
| 大栄不動産株式会社    | 664千株   | 5.1%  |
| 株式会社埼玉りそな銀行  | 652千株   | 5.0%  |
| むさし証券株式会社    | 645千株   | 4.9%  |
| 株式会社安藤・間     | 525千株   | 4.0%  |
| 有限会社エヌ・アイ    | 500千株   | 3.8%  |
| 株式会社ホテルサイボー  | 384千株   | 2.9%  |
| 損害保険ジャパン株式会社 | 374千株   | 2.9%  |
| 大成建設株式会社     | 329千株   | 2.5%  |

(注) 持株比率は、自己株式(521,321株)を控除して計算しております。

### 3. 会社の新株予約権等に関する事項

#### (1) 当社役員が保有している新株予約権等の状況

|                  |                              |         |                              |
|------------------|------------------------------|---------|------------------------------|
|                  | 2018年第13回<br>新株予約権           |         | 2019年第14回<br>新株予約権           |
| 発行決議日            | 2018年6月28日                   |         | 2019年6月27日                   |
| 区分               | 取締役(注)1                      | 監査役(注)2 | 取締役(注)1                      |
| 保有者数             | 6名                           | 1名      | 5名                           |
| 新株予約権の数          | 190個                         | 30個     | 190個                         |
| 新株予約権の目的となる株式の数  | 19,000株                      | 3,000株  | 19,000株                      |
| 新株予約権の目的となる株式の種類 | 普通株式                         |         | 普通株式                         |
| 新株予約権の払込金額       | 払込を要しない                      |         | 払込を要しない                      |
| 権利行使時1株当たりの行使価額  | 506円                         |         | 437円                         |
| 権利行使期間           | 2020年7月26日から<br>2024年6月28日まで |         | 2021年7月26日から<br>2025年6月27日まで |
| 新株予約権の行使の条件      | (別記)                         |         | (別記)                         |
|                  | 2020年第15回<br>新株予約権           |         | 2021年第16回<br>新株予約権           |
| 発行決議日            | 2020年6月26日                   |         | 2021年6月29日                   |
| 区分               | 取締役(注)1                      |         | 取締役(注)1                      |
| 保有者数             | 6名                           |         | 8名                           |
| 新株予約権の数          | 210個                         |         | 250個                         |
| 新株予約権の目的となる株式の数  | 21,000株                      |         | 25,000株                      |
| 新株予約権の目的となる株式の種類 | 普通株式                         |         | 普通株式                         |
| 新株予約権の払込金額       | 払込を要しない                      |         | 払込を要しない                      |
| 権利行使時1株当たりの行使価額  | 429円                         |         | 494円                         |
| 権利行使期間           | 2022年7月28日から<br>2026年6月26日まで |         | 2023年7月28日から<br>2027年6月29日まで |
| 新株予約権の行使の条件      | (別記)                         |         | (別記)                         |

|                  | 2022年第17回<br>新株予約権           | 2023年第18回<br>新株予約権           |
|------------------|------------------------------|------------------------------|
| 発行決議日            | 2022年6月29日                   | 2023年6月29日                   |
| 区分               | 取締役(注)1                      | 取締役(注)1                      |
| 保有者数             | 8名                           | 8名                           |
| 新株予約権の数          | 290個                         | 290個                         |
| 新株予約権の目的となる株式の数  | 29,000株                      | 29,000株                      |
| 新株予約権の目的となる株式の種類 | 普通株式                         | 普通株式                         |
| 新株予約権の払込金額       | 払込を要しない                      | 払込を要しない                      |
| 権利行使時1株当たりの行使価額  | 450円                         | 486円                         |
| 権利行使期間           | 2024年7月27日から<br>2028年6月29日まで | 2025年7月27日から<br>2029年6月29日まで |
| 新株予約権の行使の条件      | (別記)                         | (別記)                         |

(注)1. 社外取締役分は含まれておりません。

(注)2. 監査役については取締役在任中に付与したものであります。

(別記)

新株予約権の行使の条件

- ① 各新株予約権1個当たりの一部行使はできないものとする。
- ② 新株予約権者は、新株予約権の権利行使時において、当社の取締役の地位にあることを要する。但し、任期満了により退任した場合その他当社が認めた正当な理由がある場合はこの限りではない。
- ③ その他の条件は、新株予約権発行の取締役会決議に基づき、当社と新株予約権者との間で締結する新株予約権付与契約にて定めるものとする。

**(2) 当事業年度中に使用人等に対し交付した新株予約権等の状況**  
付与しておりません。

**(3) その他新株予約権等に関する重要な事項**  
該当事項はありません。

#### 4. 会社役員に関する事項

##### (1) 取締役及び監査役の氏名等

| 氏 名     | 地 位       | 担当及び重要な兼職の状況                                   |
|---------|-----------|--|
| 飯 塚 榮 一 | 代表取締役社長   |  |
| 飯 塚 将   | 専 務 取 締 役 | 不動産事業本部統括兼不動産開発事業部長                            |
| 飯 塚 豊   | 常 務 取 締 役 | 管理本部統括兼総務部長<br>埼玉興業(株)代表取締役社長                  |
| 飯 塚 博 文 | 取 締 役     |  |
| 飯 塚 元 一 | 取 締 役     | 経営企画室長<br>埼玉不動産(株)代表取締役社長<br>(株)ホテルサイボー代表取締役社長 |
| 浅 香 祐 司 | 取 締 役     | 繊維事業本部長兼マテリアル部長<br>日宇産業(株)代表取締役会長              |
| 伊 藤 素 典 | 取 締 役     | 繊維事業本部アパレル部長                                   |
| 白 田 浩 二 | 取 締 役     | 管理本部財務部長                                       |
| 西 原 京 子 | 取 締 役     |  |
| 嶋 田 昌 美 | 取 締 役     |  |
| 村 木 徹   | 常 勤 監 査 役 | (株)ピックルスホールディングス社外監査役                          |
| 錦 戸 景 一 | 監 査 役     | 光和総合法律事務所代表弁護士<br>(株)日本M&Aセンターホールディングス社外取締役    |
| 藤 井 孝 男 | 監 査 役     |  |

- (注) 1. 西原京子氏及び嶋田昌美氏は、社外取締役であります。  
 2. 村木徹氏及び錦戸景一氏は、社外監査役であります。  
 3. 監査役藤井孝男氏は、当社内の経理部門で経理経験を有し、財務及び会計に関する相当程度の知見を有するものであります。  
 4. 取締役西原京子氏、取締役嶋田昌美氏及び監査役村木徹氏は、東京証券取引所の定めに基づく独立役員であります。

## (2) 責任限定契約の内容の概要

当社の社外取締役及び監査役全員との間で、会社法第423条第1項の責任につき、会社法第425条第1項に規定する最低責任限度額をもって、損害賠償責任の限度とする契約を締結しております。

## (3) 役員等賠償責任保険契約の内容の概要

当社は、会社法第430条の3第1項に規定する役員等賠償責任保険契約を保険会社との間で締結しております。当該保険契約の被保険者の範囲は当社の取締役、監査役及び管理職従業員であり、被保険者は保険料を負担しておりません。当該保険契約により保険期間中に被保険者に対して提起された損害賠償請求にかかる訴訟費用及び損害賠償金等が填補されることとなります。

ただし、被保険者の職務の執行の適正性が損なわれないようにするため、当該被保険者が法令違反の行為であることを認識して行った行為に起因して生じた損害の場合には填補の対象とならないなど、一定の免責事由があります。

## (4) 当事業年度に係る取締役及び監査役の報酬等

### ① 取締役の個人別の報酬等の内容に係る決定方針に関する事項

当社は、取締役の個人別の報酬等の内容に係る決定方針（以下、決定方針という。）を取締役会で定めています。当社の取締役の報酬は、企業価値の持続的な向上を図るインセンティブとして十分に機能するよう株主利益と連動した報酬体系とし、個々の取締役の報酬の決定に際しては各職責を踏まえた適正な水準とすることを基本方針とします。具体的には、「基本報酬」、「株式報酬」及び「役員退職慰労金」で構成する固定報酬を基本的枠組みにしています。「基本報酬」は、各役位の職務に対して毎月固定額を支給する報酬であり、「株式報酬」は、毎年、ストックオプションを付与するもので付与数は役位に応じて決定します。「役員退職慰労金」は、長期的なインセンティブを目的に毎年一定額を引き当て、退任時に一括して支給する報酬です。また、これらの支給割合は、役位・職責、業績を総合的に勘案して設定されます。

取締役報酬の決定方法については、株主総会決議により取締役の報酬等の限度額を決定します。報酬額は、取締役会の授権を受けた代表取締役が、代表権の有無、役職、業績、社会水準等を総合的に勘案し決定します。役員退職慰労金については、「役員退職慰労金規

程」に基づき、役位、在任年数等に応じた役員退職慰労金算定基準により決定します。

なお、取締役の個別報酬については、代表取締役の試案に基づき、社外役員が半数以上を占める任意の諮問委員会（指名・報酬諮問委員会）において、十分な審議のうえで、取締役会に答申しています。取締役の個人別の報酬等の内容の決定に当たっては、指名・報酬諮問委員会が試案について決定方針との整合性を含めた多角的な検討を行っているため、取締役会も基本的にその答申を尊重し決定方針に沿うものであると判断しています。

監査役の報酬は、固定報酬とし、株主総会の決議により定められた報酬総額の限度額の範囲内で、各監査役が常勤・非常勤の別、役割、社会水準等を総合的に勘案し、監査役の協議により決定します。

## ② 取締役及び監査役の報酬等についての株主総会の決議に関する事項

当社の取締役の報酬等に関する株主総会の決議年月日は2021年6月29日であり、決議の内容は、年額報酬額を2億20百万円以内（うち社外取締役分は年額30百万円以内）及びかかる年額報酬額とは別にストックオプションによる報酬等の額として各事業年度につき20百万円以内（うち社外取締役分は1百万円以内）です。なお、取締役の報酬額には、従来どおり使用人兼務取締役の使用人分給与は含まないものとします。また、当該定時株主総会終結時点の取締役の員数は11名（うち社外取締役2名）です。

当社の監査役の報酬額に関する株主総会の決議年月日は2008年6月27日であり、決議の内容は、年額報酬額を30百万円以内です。また、当該定時株主総会終結時点の監査役の員数は4名（うち社外監査役4名）です。

## ③ 取締役の個人別の報酬等の内容の決定に係る委任に関する事項

当社の取締役会は、取締役の報酬等の額の決定過程において、各取締役の支給額を代表取締役社長飯塚榮一に一任する議案を決議しています。取締役会の委任決議に基づき、代表取締役社長飯塚榮一が、指名・報酬諮問委員会の答申を踏まえ決定します。この権限を委任した理由は、当社全体の業績を俯瞰しつつ各取締役の担当業務の評価を行うには代表取締役が最も適していると判断したからです。

④ 取締役及び監査役の報酬等の総額等

| 役員区分             | 報酬等の<br>総額<br>(百万円) | 報酬等の種類別の総額(百万円) |            |           | 対象となる<br>役員の員数<br>(人) |
|------------------|---------------------|-----------------|------------|-----------|-----------------------|
|                  |                     | 基本報酬            | 非金銭<br>報酬等 | 退職<br>慰労金 |                       |
| 取締役<br>(うち社外取締役) | 153<br>(9)          | 145<br>(8)      | 0<br>(―)   | 7<br>(0)  | 10<br>(2)             |
| 監査役<br>(うち社外監査役) | 22<br>(20)          | 21<br>(18)      | ―<br>(―)   | 1<br>(1)  | 3<br>(2)              |

- (注) 1. 取締役の報酬等の額には、使用人兼務取締役の使用人分給与は含まれておりません。  
 2. 非金銭報酬等は、ストックオプションとして付与した新株予約権に係る当事業年度中の費用計上額であります。  
 3. 退職慰労金は、当事業年度に計上した役員退職慰労引当金繰入額であります。  
 4. 上記のほか、2023年6月29日開催の定時株主総会の決議に基づく役員退職慰労金の額は、取締役1名 16百万円であります。なお、当事業年度並びに当事業年度以前の事業報告において記載済みの役員退職慰労引当金繰入額を除いております。

⑤ 非金銭報酬等の内容

取締役が株式保有を通じて株主との価値共有を高めることにより、企業価値の持続的向上を図るため、取締役に対して新株予約権を付与しております。当該新株予約権の内容及びその付与状況は「3. 会社の新株予約権等に関する事項」に記載のとおりです。

## (5) 社外役員に関する事項

### ① 重要な兼職先である法人等と当社との関係

社外監査役村木徹氏は㈱ピックルスホールディングスの社外監査役を兼務しており、社外監査役錦戸景一氏は光和総合法律事務所の代表弁護士及び㈱日本M&Aセンターホールディングスの社外取締役を兼務しております。なお、社外監査役が兼務する企業と当社の間での重要な取引はありません。

### ② 当事業年度における主な活動状況

| 区分    | 氏名    | 出席状況、発言状況及び社外取締役にて期待される役割に関して行った職務の概要  |
|-------|-------|--|
| 社外取締役 | 西原 京子 | 取締役会12回の全てに出席し、特に金融に関する幅広い知見とリスクマネジメントの観点からの確かな発言を行うなど適切に役割を果たしております。また、指名・報酬諮問委員会の委員を務め、独立した観点から適宜必要な助言を行っております。  |
| 社外取締役 | 嶋田 昌美 | 取締役会12回の全てに出席し、特に他の事業会社での経営に関する経験と財務会計における深い知見を活かし、取締役会の意思決定の妥当性を確保する発言を行い、社外取締役に期待される役割を果たしております。   |
| 社外監査役 | 村木 徹  | 取締役会12回の全てに出席し、独立した立場から豊富な経営に関する経験とリスク管理における幅広い知見を活かし適宜質問し意見を述べております。監査役会15回の全てに出席し、監査結果について意見交換、監査に関する重要事項の協議等を行っております。また、指名・報酬諮問委員会の委員を務め、独立した観点から適宜必要な助言を行っております。 |
| 社外監査役 | 錦戸 景一 | 取締役会12回の全てに出席し、弁護士としての専門的な見地から取締役会の意思決定の適法性を確保するための発言を行っております。監査役会15回の全てに出席し監査結果について意見交換、監査に関する重要事項の協議等を行っております。   |

(注) 上記の取締役会の開催回数のほか、会社法第370条および当社定款第25条第2項の規定に基づき、取締役会決議があったものとみなす書面決議が1回ありました。

## 5. 会計監査人の状況

### (1) 会計監査人の名称

有限責任監査法人トーマツ

### (2) 当事業年度に係る会計監査人の報酬等の額

- |                                 |       |
|---------------------------------|-------|
| ① 会計監査人としての報酬等の額                | 37百万円 |
| ② 当社及び子会社が支払うべき金銭その他の財産上の利益の合計額 | 37百万円 |

- (注) 1. 当社と会計監査人との間の監査契約において、会社法に基づく監査と金融商品取引法に基づく監査の監査報酬等の額を区分しておりませんので、金融商品取引法に基づく監査の監査報酬等の額を含めて記載しております。
2. 監査役会は、日本監査役協会が公表する「会計監査人との連携に関する実務指針」を踏まえ、会計監査人による当事業年度監査計画の内容、監査時間及び報酬見積り等の妥当性を検討した結果、会計監査人の報酬等について会社法第399条第1項の同意を行っております。

### (3) 会計監査人の解任又は不再任の決定の方針

会計監査人の解任につきましては、会計監査人が会社法第340条第1項各号に定めるいずれかの事由に該当した場合、監査役会は監査役全員の同意により会計監査人を解任いたします。この場合、監査役会が選定した監査役は、解任後最初に招集される株主総会におきまして、会計監査人を解任した旨と解任の理由を報告いたします。

また、上記の場合の他、会計監査人の職務遂行の状況、監査の品質等を総合的に勘案して、監査役会は会計監査人の解任又は不再任に関する議案の内容を決定し、取締役会は当該決定に基づき、当該議案を株主総会に提案いたします。

## 6. 株式会社の支配に関する基本方針

当社では、会社の財務及び事業の方針の決定を支配する者のあり方に関する基本方針については、特に定めておりません。

~~~~~  
(注) 本事業報告中の記載金額は、表示単位未満の端数を切り捨てて表示しております。

## 連結貸借対照表

2024年3月31日現在

(単位：千円)

| 科 目             | 金 額               | 科 目              | 金 額               |
|-----------------|-------------------|------------------|-------------------|
| <b>(資産の部)</b>   |                   | <b>(負債の部)</b>    |                   |
| <b>流動資産</b>     | <b>7,819,476</b>  | <b>流動負債</b>      | <b>3,864,919</b>  |
| 現金及び預金          | 3,560,544         | 支払手形及び買掛金        | 1,515,157         |
| 受取手形、売掛金及び契約資産  | 2,100,450         | 短期借入金            | 270,000           |
| 有価証券            | 80,472            | 1年内返済予定長期借入金     | 1,089,793         |
| 棚卸資産            | 2,049,942         | 未払法人税等           | 363,711           |
| その他             | 246,099           | 賞与引当金            | 58,000            |
| 貸倒引当金           | △218,033          | 役員賞与引当金          | 7,000             |
|                 |                   | その他              | 561,257           |
| <b>固定資産</b>     | <b>35,714,309</b> | <b>固定負債</b>      | <b>20,107,838</b> |
| <b>有形固定資産</b>   | <b>29,304,494</b> | 長期借入金            | 12,638,163        |
| 建物及び構築物         | 20,881,633        | 役員退職慰労引当金        | 214,638           |
| 機械装置及び運搬具       | 15,118            | 退職給付に係る負債        | 202,786           |
| 工具器具及び備品        | 133,474           | 長期預り保証金          | 5,589,745         |
| 土地              | 8,019,125         | 資産除去債務           | 902,425           |
| リース資産           | 255,142           | 繰延税金負債           | 306,538           |
| <b>無形固定資産</b>   | <b>4,270</b>      | その他              | 253,539           |
| <b>投資その他の資産</b> | <b>6,405,543</b>  | <b>負債合計</b>      | <b>23,972,757</b> |
| 投資有価証券          | 6,021,161         | <b>(純資産の部)</b>   |                   |
| 繰延税金資産          | 70,617            | <b>株主資本</b>      | <b>15,544,552</b> |
| その他             | 313,866           | 資本金              | 1,402,000         |
| 貸倒引当金           | △102              | 資本剰余金            | 825,348           |
|                 |                   | 利益剰余金            | 13,655,898        |
|                 |                   | 自己株式             | △338,694          |
|                 |                   | その他の包括利益累計額      | 1,652,063         |
|                 |                   | その他有価証券評価差額金     | 1,481,355         |
|                 |                   | 繰延ヘッジ損益          | 102,470           |
|                 |                   | 退職給付に係る調整累計額     | 68,237            |
|                 |                   | 新株予約権            | 4,291             |
|                 |                   | 非支配株主持分          | 2,360,120         |
|                 |                   | <b>純資産合計</b>     | <b>19,561,027</b> |
| <b>資産合計</b>     | <b>43,533,785</b> | <b>負債及び純資産合計</b> | <b>43,533,785</b> |

(注) 記載金額は千円未満を切り捨てて表示しております。

## 連結損益計算書

2023年4月1日から  
2024年3月31日まで

(単位：千円)

| 科 目             | 金 額     |            |
|-----------------|---------|------------|
| 売上高             |         | 11,422,699 |
| 売上原価            |         | 8,777,853  |
| 売上総利益           |         | 2,644,846  |
| 販売費及び一般管理費      |         | 1,657,567  |
| 営業利益            |         | 987,279    |
| 営業外収益           |         |            |
| 受取利息及び配当金       | 187,795 |            |
| 持分法による投資利益      | 263,013 |            |
| 受取保険金           | 79,926  |            |
| その他の            | 100,941 | 631,676    |
| 営業外費用           |         |            |
| 支払利息            | 96,951  |            |
| 災害による損失         | 64,895  |            |
| その他             | 36,089  | 197,936    |
| 経常利益            |         | 1,421,019  |
| 特別利益            |         |            |
| 新株予約権戻入益        | 888     | 888        |
| 特別損失            |         |            |
| 投資有価証券評価損       | 20,000  | 20,000     |
| 税金等調整前当期純利益     |         | 1,401,907  |
| 法人税、住民税及び事業税    | 434,435 |            |
| 法人税等調整額         | △38,659 | 395,775    |
| 当期純利益           |         | 1,006,131  |
| 非支配株主に帰属する当期純利益 |         | 60,413     |
| 親会社株主に帰属する当期純利益 |         | 945,718    |

(注) 記載金額は千円未満を切り捨てて表示しております。

# 貸借対照表

2024年3月31日現在

(単位：千円)

| 科 目             | 金 額               | 科 目              | 金 額               |
|-----------------|-------------------|------------------|-------------------|
| <b>(資産の部)</b>   |                   | <b>(負債の部)</b>    |                   |
| <b>流動資産</b>     | <b>5,844,932</b>  | <b>流動負債</b>      | <b>3,130,273</b>  |
| 現金及び預金          | 1,891,493         | 支払手形             | 385,308           |
| 受取手形            | 107,668           | 買掛金              | 990,842           |
| 売掛金             | 1,773,263         | 1年内返済予定長期借入金     | 1,027,590         |
| 有価証券            | 80,472            | 未払法人税等           | 337,066           |
| 棚卸資産            | 1,935,527         | 賞与引当金            | 42,867            |
| 短期貸付            | 81,800            | その他              | 346,598           |
| そ の 他           | 216,706           | <b>固定負債</b>      | <b>20,494,275</b> |
| 貸倒引当金           | △242,000          | 長期借入金            | 13,551,667        |
| <b>固定資産</b>     | <b>30,903,046</b> | 退職給付引当金          | 156,244           |
| <b>有形固定資産</b>   | <b>26,829,349</b> | 役員退職慰労引当金        | 136,462           |
| 建物              | 19,737,167        | 長期預り保証金          | 5,604,331         |
| 構築物             | 291,169           | 繰延税金負債           | 278,811           |
| 車両及び運搬具         | 399               | 資産除去債務           | 669,449           |
| 工具器具及び備品        | 59,536            | その他              | 97,309            |
| 土地              | 6,661,083         | <b>負債合計</b>      | <b>23,624,548</b> |
| リース資産           | 79,992            | <b>(純資産の部)</b>   |                   |
| <b>投資その他の資産</b> | <b>4,073,697</b>  | <b>株主資本</b>      | <b>11,805,825</b> |
| 投資有価証券          | 3,661,634         | 資本金              | 1,402,000         |
| 関係会社株           | 89,540            | 資本剰余金            | 825,348           |
| 出資              | 400               | 資本準備金            | 825,348           |
| 関係会社長期貸付        | 271,945           | <b>利益剰余金</b>     | <b>9,830,705</b>  |
| そ の 他           | 285,177           | 利益準備金            | 266,398           |
| 貸倒引当金           | △235,000          | その他利益剰余金         | 9,564,306         |
|                 |                   | 固定資産圧縮積立金        | 77,927            |
|                 |                   | 特別償却準備金          | 9,629             |
|                 |                   | 別途積立金            | 8,069,000         |
|                 |                   | 繰越利益剰余金          | 1,407,749         |
|                 |                   | <b>自己株式</b>      | <b>△252,227</b>   |
|                 |                   | 評価・換算差額等         | 1,313,313         |
|                 |                   | その他有価証券評価差額金     | 1,210,842         |
|                 |                   | 繰延ヘッジ損益          | 102,470           |
|                 |                   | 新株予約権            | 4,291             |
|                 |                   | <b>純資産合計</b>     | <b>13,123,430</b> |
| <b>資産合計</b>     | <b>36,747,978</b> | <b>負債及び純資産合計</b> | <b>36,747,978</b> |

(注) 記載金額は千円未満を切り捨てて表示しております。

## 損 益 計 算 書

2023年 4 月 1 日から  
2024年 3 月31日まで

(単位：千円)

| 科 目                    | 金 額       |                  |
|------------------------|-----------|------------------|
| <b>売 上 高</b>           | 5,292,228 | <b>8,976,887</b> |
| 売 上 原 価                | 3,684,659 |                  |
| 不 動 産 賃 貸 収 入          | 4,495,600 | <b>6,697,883</b> |
| 不 動 産 賃 貸 費 用          | 2,202,282 |                  |
| <b>売 上 総 利 益</b>       |           | <b>2,279,004</b> |
| 販 売 費 及 び 一 般 管 理 費    |           | <b>1,411,772</b> |
| <b>営 業 利 益</b>         |           | <b>867,231</b>   |
| 営 業 外 収 益              |           | 380,757          |
| 受 取 利 息 及 び 配 当 金      | 187,158   |                  |
| 有 価 証 券 売 却 益          | 48,259    |                  |
| 受 取 保 険 金              | 75,529    |                  |
| そ の 他                  | 69,809    |                  |
| <b>営 業 外 費 用</b>       |           | 207,557          |
| 支 払 利 息                | 104,069   |                  |
| 災 害 に よ る 損 失 他        | 67,360    |                  |
| そ の 他                  | 36,127    |                  |
| <b>経 常 利 益</b>         |           | <b>1,040,431</b> |
| <b>特 別 利 益</b>         |           |                  |
| 新 株 予 約 権 戻 入 益        | 888       | 888              |
| <b>特 別 損 失</b>         |           |                  |
| 投 資 有 価 証 券 評 価 損      | 20,000    | 20,000           |
| <b>税 引 前 当 期 純 利 益</b> |           | <b>1,021,319</b> |
| 法 人 税、住 民 税 及 び 事 業 税  | 396,493   |                  |
| 法 人 税 等 調 整 額          | △43,297   | 353,196          |
| <b>当 期 純 利 益</b>       |           | <b>668,122</b>   |

(注) 記載金額は千円未満を切り捨てて表示しております。

独立監査人の監査報告書

2024年5月15日

サイボー株式会社  
取締役会 御中

有限責任監査法人トーマツ  
さいたま事務所

指定有限責任社員 業務執行社員 公認会計士 桃 木 秀 一  
指定有限責任社員 業務執行社員 公認会計士 渡 邊 康 一 郎

監査意見

当監査法人は、会社法第444条第4項の規定に基づき、サイボー株式会社の2023年4月1日から2024年3月31日までの連結会計年度の連結計算書類、すなわち、連結貸借対照表、連結損益計算書、連結株主資本等変動計算書、連結計算書類の作成のための基本となる重要な事項及びその他の注記について監査を行った。

当監査法人は、上記の連結計算書類が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、サイボー株式会社及び連結子会社からなる企業集団の当該連結計算書類に係る期間の財産及び損益の状況を、全ての重要な点において適正に表示しているものと認める。

監査意見の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準における当監査法人の責任は、「連結計算書類の監査における監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社及び連結子会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

その他の記載内容

その他の記載内容は、事業報告及びその附属明細書である。経営者の責任は、その他の記載内容を作成し開示することにある。また、監査役及び監査役会の責任は、その他の記載内容の報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

当監査法人の連結計算書類に対する監査意見の対象にはその他の記載内容は含まれておらず、当監査法人はその他の記載内容に対して意見を表明するものではない。

連結計算書類の監査における当監査法人の責任は、その他の記載内容を通読し、通読の過程において、その他の記載内容と連結計算書類又は当監査法人が監査の過程で得た知識との間に重要な相違があるかどうかを検討すること、また、そのような重要な相違以外にその他の記載内容に重要な誤りの兆候があるかどうか注意を払うことにある。

当監査法人は、実施した作業に基づき、その他の記載内容に重要な誤りがあると判断した場合には、その事実を報告することが求められている。

その他の記載内容に関して、当監査法人が報告すべき事項はない。

#### 連結計算書類に対する経営者並びに監査役及び監査役会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して連結計算書類を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない連結計算書類を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

連結計算書類を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき連結計算書類を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査役及び監査役会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

#### 連結計算書類の監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した監査に基づいて、全体としての連結計算書類に不正又は誤謬による重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得て、監査報告書において独立の立場から連結計算書類に対する意見を表明することにある。虚偽表示は、不正又は誤謬により発生する可能性があり、個別に又は集計すると、連結計算書類の利用者の意思決定に影響を与えると合理的に見込まれる場合に、重要性があると判断される。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に従って、監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 不正又は誤謬による重要な虚偽表示リスクを識別し、評価する。また、重要な虚偽表示リスクに対応した監査手続を立案し、実施する。監査手続の選択及び適用は監査人の判断による。さらに、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手する。
- ・ 連結計算書類の監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、監査人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、監査に関連する内部統制を検討する。
- ・ 経営者が採用した会計方針及びその適用方法の適切性、並びに経営者によって行われた会計上の見積りの合理性及び関連する注記事項の妥当性を評価する。
- ・ 経営者が継続企業を前提として連結計算書類を作成することが適切であるかどうか、また、入手した監査証拠に基づき、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められるかどうか結論付ける。継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、監査報告書において連結計算書類の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する連結計算書類の注記事項が適切でない場合は、連結計算書類に対して除外事項付意見を表明することが求められている。監査人の結論は、監査報告書日までに入手した監査証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 連結計算書類の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠しているかどうかとともに、関連する注記事項を含めた連結計算書類の表示、構成及び内容、並びに連結計算書類が基礎となる取引や会計事象を適正に表示しているかどうかを評価する。
- ・ 連結計算書類に対する意見を表明するために、会社及び連結子会社の財務情報に関する十分かつ適切な監査証拠を入手する。監査人は、連結計算書類の監査に関する指示、監督及び実施に関して責任がある。監査人は、単独で監査意見に対して責任を負う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、計画した監査の範囲とその実施時期、監査の実施過程で識別した内部統制の重要な不備を含む監査上の重要な発見事項、及び監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去するための対応策を講じている場合又は阻害要因を許容可能な水準にまで軽減するためのセーフガードを適用している場合はその内容について報告を行う。

#### 利害関係

会社及び連結子会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

独立監査人の監査報告書

2024年5月15日

サイボー株式会社  
取締役会 御中

有限責任監査法人トーマツ  
さいたま事務所

|                    |                 |
|--------------------|-----------------|
| 指定有限責任社員<br>業務執行社員 | 公認会計士 桃 木 秀 一   |
| 指定有限責任社員<br>業務執行社員 | 公認会計士 渡 邊 康 一 郎 |

監査意見

当監査法人は、会社法第436条第2項第1号の規定に基づき、サイボー株式会社の2023年4月1日から2024年3月31日までの第101期事業年度の計算書類、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書、重要な会計方針及びその他の注記並びにその附属明細書（以下「計算書類等」という。）について監査を行った。

当監査法人は、上記の計算書類等が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、当該計算書類等に係る期間の財産及び損益の状況を、全ての重要な点において適正に表示しているものと認める。

監査意見の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準における当監査法人の責任は、「計算書類等の監査における監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

その他の記載内容

その他の記載内容は、事業報告及びその附属明細書である。経営者の責任は、その他の記載内容を作成し開示することにある。また、監査役及び監査役会の責任は、その他の記載内容の報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

当監査法人の計算書類等に対する監査意見の対象にはその他の記載内容は含まれておらず、当監査法人はその他の記載内容に対して意見を表明するものではない。

計算書類等の監査における当監査法人の責任は、その他の記載内容を通読し、通読の過程において、その他の記載内容と計算書類等又は当監査法人が監査の過程で得た知識との間に重要な相違があるかどうかを検討すること、また、そのような重要な相違以外にその他の記載内容に重要な誤りの兆候があるかどうかを注意を払うことにある。

当監査法人は、実施した作業に基づき、その他の記載内容に重要な誤りがあると判断した場合には、その事実を報告することが求められている。

その他の記載内容に関して、当監査法人が報告すべき事項はない。

#### 計算書類等に対する経営者並びに監査役及び監査役会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して計算書類等を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない計算書類等を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

計算書類等を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき計算書類等を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査役及び監査役会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

#### 計算書類等の監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した監査に基づいて、全体としての計算書類等に不正又は誤謬による重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得て、監査報告書において独立の立場から計算書類等に対する意見を表明することにある。虚偽表示は、不正又は誤謬により発生する可能性があり、個別に又は集計すると、計算書類等の利用者の意思決定に影響を与えると合理的に見込まれる場合に、重要性があると判断される。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に従って、監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 不正又は誤謬による重要な虚偽表示リスクを識別し、評価する。また、重要な虚偽表示リスクに対応した監査手続を立案し、実施する。監査手続の選択及び適用は監査人の判断による。さらに、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手する。
- ・ 計算書類等の監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、監査人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、監査に関連する内部統制を検討する。
- ・ 経営者が採用した会計方針及びその適用方法の適切性、並びに経営者によって行われた会計上の見積りの合理性及び関連する注記事項の妥当性を評価する。
- ・ 経営者が継続企業を前提として計算書類等を作成することが適切であるかどうか、また、入手した監査証拠に基づき、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められるかどうか結論付ける。継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、監査報告書において計算書類等の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する計算書類等の注記事項が適切でない場合は、計算書類等に対して除外事項付意見を表明することが求められている。監査人の結論は、監査報告書日までに入手した監査証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 計算書類等の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠しているかどうかとともに、関連する注記事項を含めた計算書類等の表示、構成及び内容、並びに計算書類等が基礎となる取引や会計事象を適正に表示しているかどうかを評価する。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、計画した監査の範囲とその実施時期、監査の実施過程で識別した内部統制の重要な不備を含む監査上の重要な発見事項、及び監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去するための対応策を講じている場合又は阻害要因を許容可能な水準にまで軽減するためのセーフガードを適用している場合はその内容について報告を行う。

#### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。  
以 上

### 監査報告書

当監査役会は、2023年4月1日から2024年3月31日までの第101期事業年度における取締役の職務の執行に関して、各監査役が作成した監査報告書に基づき、審議の上、本監査報告書を作成し、以下のとおり報告いたします。

#### 1. 監査役及び監査役会の監査の方法及びその内容

- (1) 監査役会は、監査の方針、職務の分担等を定め、各監査役から監査の実施状況及び結果について報告を受けるほか、取締役等及び会計監査人からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求めました。
- (2) 各監査役は、監査役会が定めた監査役監査の基準に準拠し、監査の方針、職務の分担等に従い、取締役、内部監査部門その他の使用人等と意思疎通を図り、情報の収集及び監査の環境の整備に努めるとともに、以下の方法で監査を実施いたしました。
  - ① 取締役会その他重要な会議に出席し、取締役及び使用人等からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求め、重要な決裁書類等を閲覧し、本社及び主要な事業所において業務及び財産の状況を調査いたしました。また、子会社については、子会社の取締役及び監査役等と意思疎通及び情報の交換を図り、必要に応じて子会社から事業の報告を受けました。
  - ② 事業報告に記載されている取締役の職務の執行が法令及び定款に適合することを確保するための体制その他株式会社及びその子会社から成る企業集団の業務の適正を確保するために必要なものとして会社法施行規則第100条第1項及び第3項に定める体制の整備に関する取締役会決議の内容及び当該決議に基づき整備されている体制（内部統制システム）について、取締役及び使用人等からその構築及び運用の状況について定期的に報告を受け、必要に応じて説明を求め、意見を表明いたしました。
  - ③ 会計監査人が独立の立場を保持し、かつ、適正な監査を実施しているかを監視及び検証するとともに、会計監査人からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求めました。また、会計監査人から「職務の遂行が適正に行われることを確保するための体制」（会社計算規則第131条各号に掲げる事項）を「監査に関する品質管理基準」（企業会計審議会）等に従って整備している旨の通知を受け、必要に応じて説明を求めました。

以上の方法に基づき、当該事業年度に係る事業報告及びその附属明細書、計算書類（貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書及び個別注記表）及びその附属明細書並びに連結計算書類（連結貸借対照表、連結損益計算書、連結株主資本等変動計算書及び連結注記表）について検討いたしました。

## 2. 監査の結果

### (1) 事業報告等の監査結果

- ① 事業報告及びその附属明細書は、法令及び定款に従い、会社の状況を正しく示しているものと認めます。
- ② 取締役の職務の執行に関する不正の行為又は法令若しくは定款に違反する重大な事実は認められません。
- ③ 内部統制システムに関する取締役会決議の内容は相当であると認めます。  
また、当該内部統制システムに関する事業報告の記載内容及び取締役の職務の執行についても、指摘すべき事項は認められません。

### (2) 計算書類及びその附属明細書の監査結果

会計監査人有限責任監査法人トーマツの監査の方法及び結果は相当であると認めます。

### (3) 連結計算書類の監査結果

会計監査人有限責任監査法人トーマツの監査の方法及び結果は相当であると認めます。

2024年5月21日

サイボー株式会社 監査役会

|               |   |   |   |   |
|---------------|---|---|---|---|
| 常勤監査役 (社外監査役) | 村 | 木 | 徹 | 印 |
| 社外監査役         | 錦 | 戸 | 景 | 一 |
| 監査役           | 藤 | 井 | 孝 | 男 |

以 上

# 株主総会参考書類

## 議案および参考事項

### 第1号議案 剰余金の処分の件

剰余金の処分につきましては、以下のとおりといたしたいと存じます。

#### 1. 期末配当に関する事項

当期の期末配当につきましては、当期の収益の状況と今後の事業展開を勘案して、安定配当の継続を基本として、以下のとおりといたしたいと存じます。

##### (1) 株主に対する配当財産の割当てに関する事項およびその総額

当社普通株式1株につき金8円 総額 104,629,432円

(中間配当金1株につき8円を加えた年間配当金は1株につき16円となります。)

##### (2) 剰余金の配当が効力を生ずる日

2024年6月28日

#### 2. 剰余金の処分に関する事項

剰余金の処分につきましては、経営の健全な発展を期し、今後の経営環境を勘案して財務体質の強化を図るため、以下のとおりといたしたいと存じます。

##### (1) 増加する剰余金の項目およびその額

別途積立金 500,000,000円

##### (2) 減少する剰余金の項目およびその額

繰越利益剰余金 500,000,000円

## 第2号議案 取締役4名選任の件

取締役飯塚榮一、飯塚博文、伊藤素典、西原京子、嶋田昌美の5氏は本総会終結の時をもって任期満了となります。つきましては、取締役4名の選任をお願いするものであります。

取締役候補者は次のとおりであります。

| 候補者番号                                                                                                                                                                           | 氏名<br>(生年月日)           | 略歴、地位、担当および<br>重要な兼職の状況                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         | 所有する当社の株式数 |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------|
| 1                                                                                                                                                                               | 飯塚 榮一<br>(1951年8月29日生) | 1974年3月 当社入社<br>2002年10月 当社アパレル事業部事業部長<br>2003年6月 当社取締役アパレル事業部事業部長<br>2007年10月 当社取締役繊維事業副本部長営業第二・三グループ担当<br>2010年6月 当社常務取締役繊維事業本部長営業第二・三グループ担当<br>2013年6月 当社専務取締役繊維事業本部長営業第二・三グループ担当<br>2015年6月 当社専務取締役繊維事業本部長営業第一・二・三グループ担当<br>2016年10月 当社専務取締役繊維事業本部長兼アパレル部長兼東京支店長<br>2017年7月 当社専務取締役繊維事業本部長兼東京支店長<br>2020年6月 当社代表取締役専務繊維事業本部長兼東京支店長<br>2021年6月 当社代表取締役社長（現任） | 168,000株   |
| [取締役候補者とした理由]<br>飯塚榮一氏は、当社の主要事業である繊維製品等の営業部門を経て、2003年より取締役を務め、2020年6月に代表取締役に就任しました。当社の事業および経営について豊富な知識と経験、実績があり、当社グループが継続的な成長・発展を実現するために重要な存在であることから、引き続き取締役として選任をお願いするものであります。 |                        |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |            |

| 候補者<br>番号 | 氏 名<br>(生 年 月 日)                                                                                                                                                                    | 略歴、地位、担当および<br>重要な兼職の状況                                                                                               | 所有する当<br>社の株式数 |
|-----------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------|
| 2         | い とう もと のり<br>伊 藤 素 典<br>(1958年12月13日生)                                                                                                                                             | 2003年 3 月 当社入社<br>2017年 7 月 当社繊維事業本部アパレル部長<br>2020年 6 月 当社取締役繊維事業本部アパレル部<br>長 (現任)                                    | 300株           |
|           | <p>[取締役候補者とした理由]</p> <p>伊藤素典氏は、繊維製品等の製造・販売分野に関する幅広い経験と見識があり、的確かつ迅速な意思決定ができることから、引き続き取締役として選任をお願いするものであります。</p>                                                                      |                                                                                                                       |                |
| 3         | にし はら きょう こ<br>西 原 京 子<br>(1956年11月24日生)                                                                                                                                            | 1997年 6 月 日産証券(株)常勤監査役<br>2000年 6 月 日産証券(株)取締役<br>2008年 6 月 日産証券(株)顧問<br>2008年 6 月 当社取締役 (現任)<br>2014年 6 月 日産証券(株)監査役 | 一株             |
|           | <p>[社外取締役候補者とした理由および期待される役割の概要]</p> <p>西原京子氏は、金融業界の他社での役員経験者であり、金融に対する豊富な知識や経営企画・IRに関する幅広い経験があることから、独立の立場で当社のIR・企画・財務面からの的確な経営への助言および業務執行の監督機能を期待し、引き続き社外取締役として選任をお願いするものであります。</p> |                                                                                                                       |                |

| 候補者番号                                                                                                                                                             | 氏名<br>(生年月日)          | 略歴、地位、担当および<br>重要な兼職の状況                                                                                                                                                            | 所有する当社の株式数 |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------|
| 4                                                                                                                                                                 | 嶋田昌美<br>(1955年11月1日生) | 2002年 4月 (株)あさひ銀行(現(株)りそな銀行) 板橋支店長<br>2007年 6月 (株)りそな銀行執行役員総合資金部長<br>2009年 6月 りそなキャピタル(株)代表取締役社長<br>2017年 6月 富士ヒューマンテック(株)代表取締役社長<br>2021年 6月 富士倉庫運輸(株)常勤監査役<br>2022年 6月 当社取締役(現任) | 一株         |
| 〔社外取締役候補者とした理由および期待される役割の概要〕<br>嶋田昌美氏は、金融業界を含む他の事業会社での経営経験があることから、経営者としての豊富な知識と経験を活かし、独立の立場で当社の社外取締役として幅広い経営的視点からの助言および業務執行の監督機能を期待し、引き続き社外取締役として選任をお願いするものであります。 |                       |                                                                                                                                                                                    |            |

- (注) 1. 各取締役候補者と当社との間には特別の利害関係はありません。
2. 西原京子氏および嶋田昌美氏は、社外取締役候補者であります。
3. 西原京子氏および嶋田昌美氏を東京証券取引所に対して、同取引所の定めに基づく独立役員として届け出ておりますが、本総会において両氏の選任が承認され社外取締役として就任した場合、引き続き両氏を独立役員として指定する予定であります。
4. 西原京子氏の当社社外取締役就任期間は本総会終結の時をもって16年となります。嶋田昌美氏の当社社外取締役就任期間は本総会終結の時をもって2年となります。
5. 当社は西原京子氏および嶋田昌美氏との間で、会社法第423条第1項の責任について、その職務を行うにつき善意でありかつ重大な過失がなかったときは、会社法第425条第1項に定める最低責任限度額を限度として損害賠償責任を負担するものとする旨の責任限定契約を締結しております。両氏の再任が承認された場合、当社は両氏との間の責任限定契約を継続する予定であります。
6. 当社は、会社法第430条の3第1項に規定する役員等賠償責任保険契約を保険会社との間で締結し、被保険者が負担することになる法律上の損害賠償金および争訟費用を当該保険契約により填補することとしております。各候補者は、当該保険契約の被保険者に含まれることとなります。また、当該保険契約は次回更新時においても同内容での更新を予定しております。

【ご参考】取締役の構成（第2号議案が承認された場合）

・当社取締役を求める専門性および経験

| 役職      | 氏名   | 社外役員 | 企業経営 | 営業・<br>業界知見 | 財務会計・<br>金融 | 法務・<br>リスク管理 | ESG・<br>サステナビ<br>リティ |
|---------|------|------|------|-------------|-------------|--------------|----------------------|
| 代表取締役社長 | 飯塚榮一 |      | ○    | ○           | ○           | ○            | ○                    |
| 専務取締役   | 飯塚 将 |      |      | ○           |             | ○            | ○                    |
| 常務取締役   | 飯塚 豊 |      |      | ○           |             | ○            | ○                    |
| 取締役     | 飯塚元一 |      | ○    | ○           | ○           |              |                      |
| 取締役     | 浅香祐司 |      | ○    | ○           |             |              | ○                    |
| 取締役     | 伊藤素典 |      |      | ○           |             | ○            | ○                    |
| 取締役     | 白田浩二 |      |      |             | ○           | ○            | ○                    |
| 取締役     | 西原京子 | ○    | ○    |             | ○           |              |                      |
| 取締役     | 嶋田昌美 | ○    | ○    |             | ○           |              |                      |

（注）上記は、各取締役が有する全ての専門性および経験を表すものではありません。

### 第3号議案 監査役4名選任の件

監査役全員（3名）は本総会終結の時をもって任期満了となります。つきましては、監査役4名の選任をお願いするものであります。

また、本議案に関しましては、監査役会の同意を得ております。

監査役候補者は次のとおりであります。

| 候補者番号                                                                                                                                                         | 氏名<br>(生年月日)                       | 略歴、地位および重要な兼職の状況                                                                                                                                                                                                                                                                              | 所有する当社の株式数 |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------|
| 1                                                                                                                                                             | むら き とおる<br>村 木 徹<br>(1958年4月12日生) | 2009年6月 (株)埼玉りそな銀行取締役兼常務執行役員<br>2013年4月 (株)りそな銀行専務執行役員<br>2013年4月 (株)りそなホールディングス執行役員<br>2015年4月 ジェイアンドエス保険サービス(株)代表取締役社長<br>2017年4月 りそなビジネスサービス(株)代表取締役社長<br>2020年5月 (株)ピックルスコーポレーション社外監査役<br>2020年6月 当社常勤監査役（現任）<br>2022年9月 (株)ピックルスホールディングス社外監査役（現任）<br><重要な兼職の状況><br>(株)ピックルスホールディングス社外監査役 | 一株         |
| [社外監査役候補者とした理由]<br>村木徹氏は、金融業界を含む他の事業会社での経営経験があり、当社の常勤監査役として任意の諮問委員会の委員を担っていただいておりますので、その経験と見識を当社の監査体制に活かし経営監視を適切に遂行していただけるものと判断し、引き続き社外監査役として選任をお願いするものであります。 |                                    |                                                                                                                                                                                                                                                                                               |            |

| 候補者番号                                                                                                                                                                     | 氏名<br>(生年月日)                | 略歴、地位および重要な兼職の状況                                                                                                                                                                                     | 所有する当社の株式数 |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------|
| 2                                                                                                                                                                         | にしき 錦 戸 景 一<br>(1953年5月2日生) | 1985年4月 弁護士登録<br>1994年1月 光和総合法律事務所パートナー<br>2005年6月 当社監査役(現任)<br>2017年1月 光和総合法律事務所代表弁護士(現任)<br>2022年6月 (株)日本M&Aセンターホールディングス社外取締役(現任)<br><br><重要な兼職の状況><br>光和総合法律事務所代表弁護士<br>(株)日本M&Aセンターホールディングス社外取締役 | 一株         |
| <p>〔社外監査役候補者とした理由〕<br/>         錦戸景一氏は、直接会社経営に関与したことはありませんが、弁護士としての長年の経験と企業法務の専門的な見識を有しており、当社の管理体制を熟知する立場から当社の監査体制の職務を適切に遂行していただけるものと判断し、引き続き社外監査役として選任をお願いするものであります。</p> |                             |                                                                                                                                                                                                      |            |
| 3                                                                                                                                                                         | ふじ 藤 井 孝 男<br>(1943年5月7日生)  | 1966年3月 当社入社<br>1999年6月 当社取締役総務部長<br>2003年6月 当社常務取締役管理部担当兼総務部長<br>2010年6月 当社専務取締役管理本部長兼財務部長<br>2017年11月 当社専務取締役管理本部長<br>2020年6月 当社監査役(現任)                                                            | 24,000株    |
| <p>〔監査役候補者とした理由〕<br/>         藤井孝男氏は、長年にわたる当社の財務、経理および総務の管理業務全般の豊富な経験と幅広い見識を有しており、その経験と見識を当社の監査体制に活かし経営監視を適切に遂行していただけるものと判断し、引き続き監査役として選任をお願いするものであります。</p>               |                             |                                                                                                                                                                                                      |            |

| 候補者番号                                                                                                                                                                             | 氏名<br>(生年月日)                         | 略歴、地位および重要な兼職の状況                                                                                                              | 所有する当社の株式数 |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------|
| 4                                                                                                                                                                                 | ※<br>おおの 大野 功<br>いさお<br>(1962年9月2日生) | 1986年 4月 青山監査法人入所<br>2006年 9月 あらた監査法人(現 PwC Japan 有限責任監査法人) 代表社員<br>2023年 7月 大野功公認会計士事務所所長(現任)<br><重要な兼職の状況><br>大野功公認会計士事務所所長 | 46,500株    |
| <p>〔社外監査役候補者とした理由〕</p> <p>大野功氏は、直接会社経営に関与したことはありませんが、公認会計士の資格を有しており、財務および会計に関する深い知見と豊富な経験、特にコンプライアンスおよびガバナンスに関する見識を活かし、当社の監査体制の職務を適切に遂行していただけるものと判断し、社外監査役として選任をお願いするものであります。</p> |                                      |                                                                                                                               |            |

- (注) 1. 各監査役候補者と当社との間には特別の利害関係はありません。
2. 村木徹氏、錦戸景一氏、大野功氏は、社外監査役候補者であります。
3. 当社は村木徹氏を東京証券取引所に対して、同取引所の定めに基づく独立役員として届け出ておりますが、本総会において同氏の選任が承認され社外監査役として就任した場合、引き続き同氏を独立役員として指定する予定であります。また、大野功氏の選任が承認され社外監査役として就任した場合には、東京証券取引所の定めに基づく独立役員として指定し、同取引所に届け出る予定であります。
4. 村木徹氏の当社社外監査役就任期間は本総会終結の時をもって4年となります。錦戸景一氏の当社社外監査役就任期間は本総会終結の時をもって19年となります。
5. 当社は村木徹、錦戸景一、藤井孝男の3氏との間で、会社法第423条第1項の責任について、その職務を行うにつき善意でありかつ重大な過失がなかったときは、会社法第425条第1項に定める最低責任限度額を限度として損害賠償責任を負担するものとする旨の責任限定契約を締結しております。3氏の再任が承認された場合、当社は3氏との間の責任限定契約を継続する予定であります。また、大野功氏の選任が承認された場合、当社は同氏との間で、同様の責任限定契約を締結する予定であります。
6. 当社は、会社法第430条の3第1項に規定する役員等賠償責任保険契約を保険会社との間で締結し、被保険者が負担することになる法律上の損害賠償金および争訟費用を当該保険契約により填補することとしております。各候補者は、当該保険契約の被保険者に含まれることとなります。また、当該保険契約は次回更新時においても同内容での更新を予定しております。
7. ※は新任の監査役候補者であります。

#### 第4号議案 退任取締役に対し退職慰労金贈呈の件

本総会終結の時をもって取締役を退任される飯塚博文氏に対し、在任中の労に報いるため、当社所定の基準による相当額の範囲内で、退職慰労金を贈呈いたしたく、その具体的金額、贈呈の時期、方法等は取締役会にご一任願いたいと存じます。

退職慰労金につきましては、当社の業績および企業価値の向上に尽力したため贈呈するものであり、その金額は当社「役員退職慰労金規程」に基づき、役位、在任年数等に応じた役員退職慰労金算定基準により算定され、事業報告17頁記載の当社の取締役の個人別の報酬等の内容に係る決定方針に沿うものであることから、本議案の内容は相当であると判断するものであります。

退任取締役の略歴は、次のとおりであります。

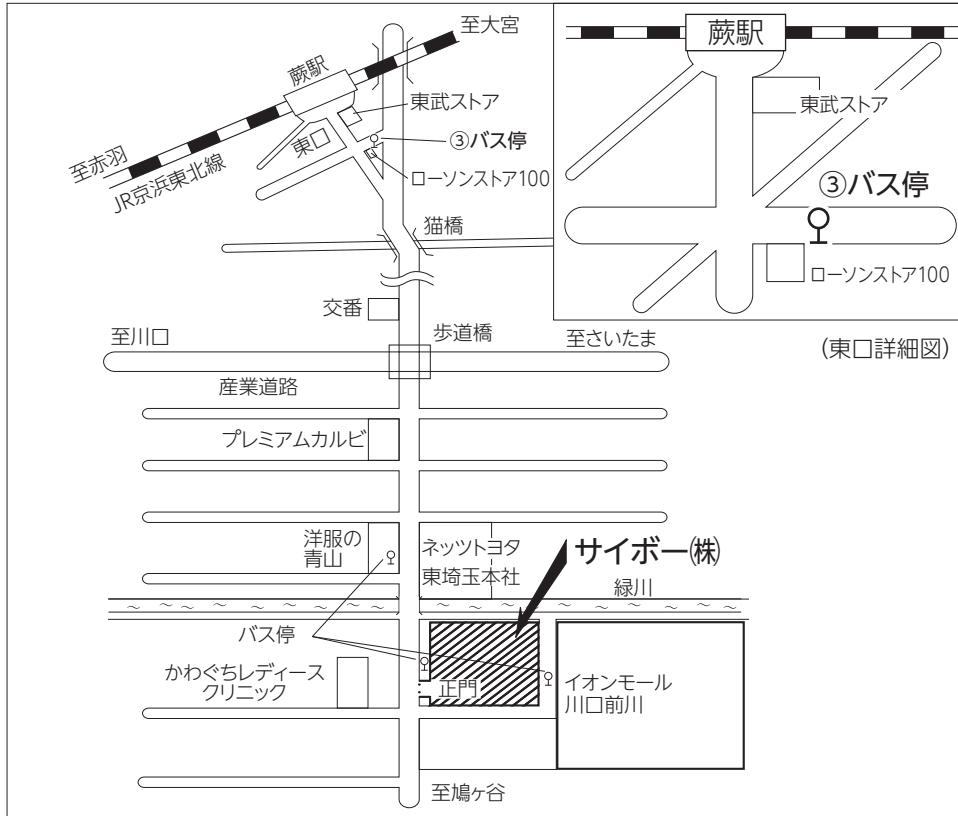
| 氏 名                        | 略 歴                 |
|----------------------------|---------------------|
| い い づ か ひ ろ ぶ み<br>飯 塚 博 文 | 1972年 7 月 当社取締役労務次長 |
|                            | 1984年 6 月 当社専務取締役   |
|                            | 1992年 7 月 当社代表取締役社長 |
|                            | 2003年 6 月 当社代表取締役会長 |
|                            | 2020年 6 月 当社取締役会長   |
|                            | 2021年 6 月 当社取締役     |
|                            | 現在に至る               |

以 上

# 株主総会会場ご案内図

会場 埼玉県川口市前川1丁目1番70号

**サイボー株式会社** 当社3階会議室



## 最寄駅

JR京浜東北線 蕨駅東口下車 約2km

国際興業バス蕨駅東口③バス停

- ・ 蕨03/蕨03-2 鳩ヶ谷駅經由新井宿駅ゆき/鳩ヶ谷駅西口ゆき
- ・ SC01/SC01-2 イオンモール川口前川ゆき イオンモール川口前川下車